

青森県沿岸におけるハタハタ漁況予測について

三浦太智

(青森県産業技術センター水産総合研究所)

目的

ハタハタは青森県日本海における冬季の重要な漁獲対象種であるが、漁獲量の年変動が非常に大きく、漁業収入が不安定になっている。漁業者が効率的に営漁できるよう、青森県におけるハタハタの漁況予測手法を検討した。

材料と方法

青森県のハタハタ年別漁獲量は秋田県と同様の傾向を示すことから、秋田県で漁期前に公表される「秋田県におけるハタハタ推定漁獲対象資源尾数(秋田県, 2013)」を基に青森県における資源量指数を求め、これまでの青森県漁獲量との関係式から 2013 年漁期の漁獲量を予測した。青森県における資源量指数は、漁獲物測定調査から求めた雌雄別年齢別の平均体重を秋田県の推定漁獲対象資源尾数に乗じて年齢別の資源重量とし、1 歳魚の雌については秋田県に比べ漁獲割合が低い(三浦, 2013)ことから、相当分を除いた値とした。

また、予測結果を検証するため、漁獲データの集計、主要漁港 2 港において銘柄選別前の雌雄判別および体長測定を漁期中に原則として毎日行い、青森県における 2013 年漁期の雌雄別体長別漁獲尾数を推定した。さらに幼魚の分布状況を把握するため、青森県日本海沖合の水深 100m~300m において試験船青鵬丸によるオッタートロール調査を 4~7 月の毎月行った。

結果と考察

秋田県が公表した推定漁獲対象資源量から、青森県における資源量指数は 5.2 と求められ、青森県の 2013 年漁期の漁獲量は 100~400 トン (5%信頼区間) で、直近 2 年と同等の漁獲になると予測された (図 1)。

青森県における 2013 年漁期の漁獲量は約 700 トン(概算値)で、予測を大きく上回った。魚体サイズは雌雄ともに 2 歳魚主体の組成となり、1 歳魚、3 歳魚も比較的多く見られた。

ハタハタ幼魚の分布調査の結果、4~5 月は 2012 年級群の 1 歳魚、6 月には 2013 年級群の 0 歳魚の分布がみられた (図 2)。0 歳魚の分布密度を年級群別に比較すると、2012 年>2011 年>2013 年の順に高かった。7 月以降は、いずれの年においても青森県沖合ではほとんど採捕されなくなり、青森県沖合から移動したと考えられた。

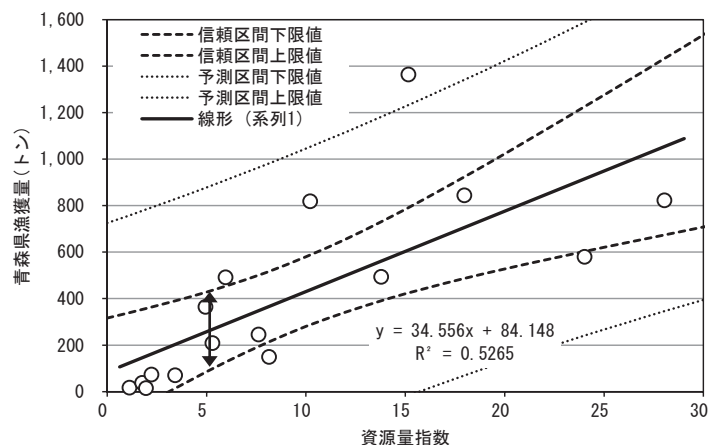


図 1 2013 年漁期の漁獲量予測結果

ハタハタは生活史の中で日本海を広域的に回遊するため、地先の調査だけでは生活史初期と産卵期のわずかな期間の情報しか得られない。予測精度の向上には生活史全体の回遊経路、および漁期以外の資源変動をモニタリングする必要がある。回遊経路を把握するため2013年に産卵親魚2,000尾の標識放流を行った。今後は再捕情報を収集するとともに、各県の漁獲動向と青森県への来遊資源との関係を検討していく。

参考文献

秋田県農林水産技術センター水産振興センター，2013：平成25年度第1回ハタハタ資源対策協議会資料．秋田県農林水産技術センター水産振興センター，9pp.
 三浦太智，2013：資源評価調査委託事業(ハタハタ)．平成23年度青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告，67-80.

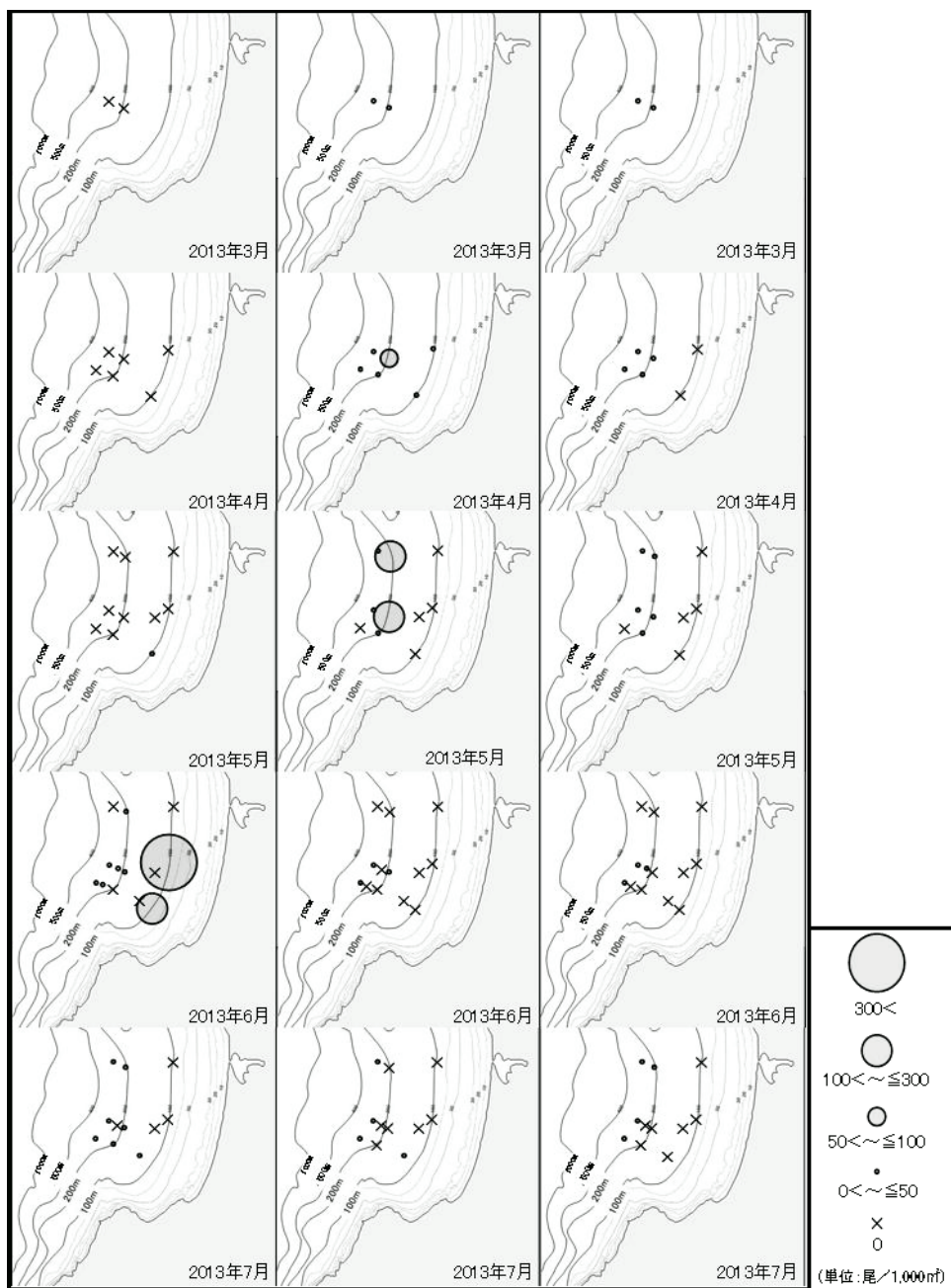


図2 2013年3月～7月のハタハタ分布密度マップ